

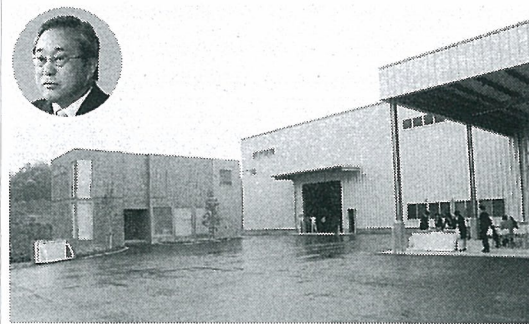
埼玉県飯能市に関東工場竣工

関西以东の供給強化へ

安成工務店

安成工務店（山口県下関市、安成信次社長）グループのデコス（同）のセルロースファイバー断熱材を製造する関東工場（埼玉県飯能市）が5日に竣工し、操業を開始した。省力化にも配慮したレイアウトや物流面での利便性を生かし、関西以东の配送拠点となる見通しで、年間生産量は2500トを見込んでいる。

同社は、セルロースファイバー断熱材を使用した乾式吹き込みの「デコスドライ工法」のおおきな引き合いにより、製造拠点である山口工場の生産が限界に近づいていたため、東に新たな製造拠点を計画していた。首都圏に近く圏央道にも近い地利と強度な地盤、S取得の見通しもついており、早期のフル生産が予定されている。敷地約1450坪を確保し、2人で操業可能な製造プラントに加えて、デコスドライ工法のさらなる普及を目的としたセミナールームも完備した。また関東工場では地域とのタイアップで環境教育にも役立てたい意向も示している。



右は工場設備、左がセミナールーム（円内は安成社長）

は次世代省エネ基準の義務化という流れで、拡大が見込まれている。断熱材にも、鉱物や石油由来など様々な断熱材の自然系断熱材が快適で健康な暮らしを守る断熱材とされている。調湿・吸音断熱材と呼んでおり、調湿と吸音性能が高く極めて快適だ。また断熱材を製造する企業の多くは納品

までを担うケースが多いが、当社では施工責任も負っている。今回の関東工場を契機にデコスドライをさらに知ってもらい、着実にシェアを高めていけたらと考えている」と話した。

来賓として出席した沢辺静彦飯能市長は「大河原工業団地は埼玉県ではNo.1で首都圏でも大規模な工業団地。市としても優良な企業に来てほしいというところで地権者らとともに誘致を重ねてきた。デコスは山口県で順調に操業されているが販路拡大ということでこの団地を選んでもらい、本当にありがたいと思う。飯能市は全体の面積の4分の3が山で、もともと西川材の産地だ。森林文化都市を掲げる当市としても木の繊維が元となる自然系断熱材が普及することを願っている」と語った。